215876
昭和25年10月18日

局外中立論

伊東巳代治纂譯

第一稿

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

第一稿引用書目

吳君爾氏萬國公法

斐理謨氏仝上

惠頓氏仝上

局外中立ノ理義古人未タ論セス

論戰國與局外交際之例

第一章 局外中立ノ義務及ヒ權利ヲ論ス

第一節 斐理謨君ト爾氏ノ公法書第百六十三節

弐テ上世ニ鑒ミ眇カニ玄風ヲ覿ルニ世昧ク人鬻ニ殊ニ戰權攻伐ヲ專カルヲ知リ局外傍觀ノ位ニ安シテ戰事ニ干與セサルモノハ則チ幷チ之ヲ次位ニ置ク合從連衡アレハ則チ邦國結盟シテ犄角ノ雄ヲ務メ上國太邦攻伐ノ利多キヲ棄テ局外ノ利少キニ就キ手ヲ束ネテ鄰邦ノ爭鬪ヲ傍觀スル者稀ナリ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

物換リ星移リ世道日々恢ニ輶軒ノ使既ニ繁ク
交聘ノ道又タ漸ク興ル航海通商ノ事盛ナルニ
及ヒテ晝一ノ公法四海ニ播行シ遠近ヲ以テ則
ヲ易ヘズ大小強弱共ニ奉シテ違フヿナシ公法
ノ力、既ニ秦楚ヲ抑ヘ強覇ノ制スルニ足ル是ニ於
テヤ他國ト交ヘテ邦國之ニ干渉セス局外ノ
位ニ在ル中ハ公法乃チ之ニ平フルニ權利ヲ以
テシ其既ニ有スル所ノ權利ヲ保持シテ失ハサラ
レム是ノ故ニ若シ二國相ト怨ヲ結ヒ相ト見ルニ干
戈ヲ以テセバ局外諸國ノ關係更ニ重キヲ加フ
ヘク若シ地ヲ易ヘテ之ヲ言ハヽ局外中立ノ權、
戰權ニ比スレハ大ニ進長シ時勢ノ趨向スル所
邦國交戰ノ成律漸ク變シテ中立貿易ノ便ヲ益
スニ至ル是レ實ニ世道文運ノ一大變ト謂フ
ク局外中立ノ法近世漸ク公法ノ要項トナル所
以ナリ

惠頓（ウヒートン）氏公法書第三章ニ曰ク往昔羅馬（ローマ）希臘（ギリーキ）ノ世
ニ當リ二國交戰ノ條規ヲ論スルモノ未タ局外
ノ意ヲ提及スルモノアラス蓋シ古時ニ於テ二
國交戰スルヤ鄰邦乃チ坐視スルヲ得ス友ノ
ヲ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

サレハ則チ敵ナリ友敵ノ間並ニ中立ノ勢ナシ故ニ羅馬、希臘兩國ノ文字中局外中立ノ語ナシ今ハ則交戦ノ例較ニ寛宏タリ強テ鄰國ヲシテ其事ニ干與セシメストイヘドモ譯者曰局外中立ノ沿革ニ就テ吳氏及ヒ惠氏二家ノ説ク所其間相ト矛盾スルナキヲ免レス輙ク茲ニ具ニ兩説ヲ併載シテ以テ讀者ノ考覈ヲ仰ク

葛羅丟氏所著ノ古書ヲ按スルニ今時公法ノ細節トナス所ノモノヲ論スル極メテ詳カニ局外中立ノ語ヲ載セス其ノ論ズル所ノ重條ニ至テハ甚タ之ヲ畧論セリ然レトモ其以前ニ比シテ局外中立ノ論稍〻重要ヲ增シタルヲ知ルニ足ル僅ニ畧節一章、身、戦事ニ關カラスシテ猶ホ兩戦者ヲ資助スルモノヲ論スルホタ僅ニ一章ナルヲ以テ同氏カ局外中立ノ説此ニ止マルヿヲ見ルヘシ、今ヤ試ニ近時百年來ノ著書ヲ披閲セヨ。概ネ公法家ノ名アルモノ皆ナ局外中立ノ條ヲ比テ特ニ詳備ヲ加ヘサルナシ

局外中立ノ國トハ戦國ノ雙方ニ對シテ均シク中立ノ責ヲ盡ス者ヲ謂フ

何ヲカ中立ノ國トスル

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

局外中立ニ差等アリ

友好ノ誼ヲ存スルモノ
濱克耳舎(ビンクルス)氏ノ所謂ユル(ユル)
ノ一方ニ黨援セサルモノナリ
局外中立其類数等アリ一、
爭ノ局外ニ立チ戰者ニ援
ノヲ言フ二、半(ハン)中立(ベルゲレンツト)今ト云フ
中立國ノ境内ニ於テ軍事ヲ治メ若クハ道ヲ假
テ兵ヲ進メ軍実ヲ購買シ兵丁及ヒ水夫ヲ招募
スルヲ得ルモノヲ云フ三、無偏(インパルシヤル)
ノ中立ト云フ一ナリ
其國ト旧約アリ或ハ兵ヲ助クル若干或ハ船雙

ヲ備辨シテ以テ講遣ニ供スル等ノ如キ旧約ノ
條件ヲ履行スルモノ約束(ヨリファイド)
拠スルヲ此ノ如ク成約ニ依テ一方ニ偏助スル
モノハ其性質同盟連合ニ類スルヿ明ケシ故ニ
他ノ一方ハ此ノ國ヲ視テ中立ノ國トナサレカ
寧ロ敵國同盟ノ國ト見做サレカ任意ニ之ヲ決
スルヲ得ヘシト雖モ其約スル所ノ資助薄少ニシ
テ苟モ事勢ニ関セス特ニ一個ノ事件若クハ一
國トノ戰事ニ渉ラスンハ則チ其敵國ヲ偏助ス
ルノ責ヲ免カルヿヲ得若シ否ラサレハ則チ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

局外中立ニ差等アリヤノ論ス

其偏助ヲナスノ國將サニ他國ノ仇敵トナラントスル千七百八十八年瑞典（スウヰーデン）露西亜ト各ヽ交ヘル（ヲ）利前約（ニ）對（ヘ）テ露國ノ偏助セルカ如キ是ナリ

蓋シ戰國一方ノ兵船其奪獲スル所ノ船隻ヲ以テ局外國ノ港口ニ携入スルトキハ局外中立ヲ區別シ（フヰリモール）斐理謨氏曰ク或ル公法家ハ局外國ノ預メ約シテ慕嚴（ヲ）若クハ半守或ハ独行若クハ約束ノ二類ヲ為スト雖モ道理ヲ推シテ之ヲ言フトキハ則決テ此ノ如キ區別ヲ為スヘカラス例ヘハ局外ノ國開戰前ノ成約ニ依テ戰國ノ一方ニ定限（リミツテド）ア（ヲ）ル資助（スッコール）ヲ為スヘキ義務ヲ負擔スルモノアリ而メ其事ノ開戰前ノ成約ニ起リ其資助ニ定限アルノ故ヲ以テ仮令ヒ其所為ノ彼ヲ敵視シ此ヲ偏助スルノ性質ヲ帶フルモ猶之ヲ抹殺スルニ足ルト云フモノハ未タ至明ノ論ニ非ルナリ（ヲ）支ヒクルテーク）ト寛克舎言スヤ彼ノ傷害セシノ船ヲ此ノ援助スルモノハ局外ノ國当ニ其道ヲ尽ヘキヲ以テ其本源ノ其争ノ所ニ與カラサルヲ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

義務ト為スヘキハ概シテ公法家ノ認スル所ナリ苟モ此ヲ偏助スルトキハ必ス之ニ応シテ其害彼ニ及フモノアリ而メ局外ノ國果メ何等義務ノ此ニ負フ所アリテ彼ニ對シ其兵ヲ援クルトモ其所謂義務ハ素リ彼ニ関係アルモノニ非スト云ハサルヘカラス此ノ道理ニ基キ既ニ英米二國各々法律ヲ制定シテ其人民ノ戦時外國ノ徴募ニ應スルヲ禁セリ先例ヲ拠スルニ現ニ局外ノ地位ニ在ツテ此ノ如キ所業アルモ被害ノ國漠然之ヲ不問ニ附シ去リタルモノハ概シテ当時形勢ノ然ラシムル所ナリシト明瞭ナリ然レトモ爰ニ論スル所ハ事ノ利害ニ非スシテ事ノ理非ニ在リ讀者幸ニ道理ト利便トヲ混同スルヿ勿レ中略蓋シ彼此双方ニ對シ事端ヲ孕薄ノ差アリト雖モ既ニ其開戦前ニ締結シタル條約ニ依テ然ルモノハ素リ局外ノ破格ヲ以テ論スヘキニ非スシテ局外ノ國ニシテ一方ノ幷船敵國ノ船貨ヲ拿獲シテ其海口ニ携入スルヲ進ルスカ如キモノト雖モ猶ホ之ヲ視テ公法破格ノ例ト為スヘカラサルヿハ惠頓氏ノ主張ス

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ル所ナリ（斐理謨氏公法書第三巻第二百六十六丁ヨリ六十七丁ニ至ル）

恵頓氏曰ク局外ノ國一方ノ戰者ト早ク盟約スル所ニ隨テ其局外ノ権ヲ限制減革セラルヽアリ例ヘハ開戰前ニ於テ既ニ約ヲ立テ、金錢（モテ）兵丁船隻軍器等若干ヲ給シ或ハ拏獲シタル船隻ヲ以テ海口ニ携入スルヲ准ルス等皆限ノ資助ヲ為スヘキ義務ヲ負擔スルモノ是ナリ而メ此ノ如キ盟約ヲ遵守シテ其義務ヲ履行スルモノアリト雖モ亦必ス之ヲ視テ局外ノ格ヲ破ルモノトセス故ニ敵ヲ以テ之ヲ待タサルナリ」局外ノ権ハ成約ニ制限セラル

外ノ國此ノ如キ関繋アルニ當テ對方ノ戰者如何ニカ之ニ處スヘキ欤ハ徒タ道理ニ拘泥セスシテ寧ロ當時ノ権宜ニ依ルヲ例トス即チ丁抹（デンマーク）國ト協護ノ盟約アリ時ニ一千七百八十八年露國（ロシヤ）ト交戰スルニ當リ瑞典（スウヰーデン）國ト成約ニ依テ露國ヲ資助スルニ兵丁及ヒ船隻若干ヲ以テスルノ外全ク局外ノ人（今限）カヲ守レリ此ノ時ニ當リテヤ露國ニ定限資助（リミツテド ソツコール）ヲ為シタルニ非ス又連合講解國（アーリード メヂエーチング パウエルス）トモニ其不可ナルヲ議セサリキ然レトモ當時ノ史紀

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ヲ援スルニ若シ戦事久キニ亘テハ則チ丁國必スヤモホタ露國ヲ援ケス或ハ露國モ亦必ス資助ヲ辞シテ之ヲ受ケサリシハ則チ瑞典ト諸講解國ト皆ナ丁國ノ局外ニ在ルヲ聽サリシナラン（憲頓氏公法書第七百十丁）

譯者曰ク丁國ノ露國ニ偏助シタル一事ニ関シ当時瑞丁両國政府ヨリ発行シタル公書ノ原文載セテ斐理謨氏公法書中ニ在リ援スルニ事道理ニ依テ（モノナリ）ル今其全文ヲ左ニ譯セテ讀者ノ參観ニ供ス

○丁抹國政府ノ照會

丁抹國外務卿某、丁抹皇帝陛下ノ詔ヲ奉シ明ニ瑞典國皇帝陛下ノ政府ニ告ク（スウヰーデン）我カ哥卑合給ノ政府ト聖彼得堡（セントピートルスボルグ）ノ政府トノ間ニ締結シタル従来ノ成約ニ據リ殊ニ千七百八十一年ノ約ニ照シテ聖彼得堡ノ政府ヲ助クルニ船隻ヲ我カ丁抹皇帝陛下ハ猶ホ瑞典皇帝陛下ト親情友誼ヲ敦フシテ我カ丁抹ノ軍并魯軍ノ旗下ニ隷シ現ニ瑞

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

瑞典國皇帝陛下ノ全權公使ニ贈ル

千七百八十八年九月廿三日

○瑞典國政府ノ照覆

丁抹國皇帝陛下ノ外務卿ヨリ予ニ寄贈スル照会文中ニ称スル想フニ、瑞典皇帝陛下方々我瑞典皇帝陛下ノ、典ヲ、攻ムルノ、軍兵、條約ニ、定ムル所、現ニ、魯國ノ、助ケテ、瑞、數ニ、踰エル、ニ、非レ、ハ、ニ、懐クノナカルベシト云々ノ理ニ照テレテ之ヲ考フルニ大ニ姓レムベキモノアリ依テ予ニ勅

典ノ境内ニ在ルモノ瑞兵ノ為メニ撃却攻破セラレ俘獲トナルモ丁抹、瑞典両國ノ友好ハ為メニ疏慢ヲ致スコトナカルベシト又タ想フニ露國ノ助ケテ瑞典軍兵條約ニ定ムル所ノ定数ニ踰エルニ非レハ瑞典皇帝陛下亦タ怨ヲ我ニ懐クコトナカルヘシト我カ丁抹皇帝陛下ハ實ニ疑ヲ抱キテ両國友情通商ノ親密ナル猶ホ前日ノ如クナランコトヲ熟望ス

丁抹國外務卿

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

レテ将ニ之ヲ普国ニ問ハレンコトヲ
然レトモ我レ固ヨリ両国臣民ノ又ニ血メル
ヲ欲スルニ非ラス且ツ今ヤ講解ノ議方ニ起
リ行ク々々欧北昔時ノ治黙ヲ収復セントスル
ノ時ニ際スルヲ以テ瑞典皇帝陛下ハ論難ヲ
容ルヘキ理義ノ有無ニ拘ハラス雌雄ヲ啓古
ニ決スルノ務メズ将サニ丁抹皇帝陛下ノ
所謂ユルホ後両國間ニ猜疑ヲ絶チ友情通商
ヲ愈〻親密ニセレトノ保言ヲ信シテ垂拱不
問ニ付セレトス

我瑞典皇帝ハ深ク英國特命全権公使エルリオ
ト氏カ此ノ重件ニ就テ陳請スル所ノモノヲ
信シテ毫モ疑心ノ懐カサルナリ
我カ瑞典皇帝ハ両國ノ交ヲ敦シテ弁ギノ悔禍ニ罹
ラサラシメント欲シ親好友交ノ故態ニ復セ
ンコトヲ冀フヲ以テ異議ナクテ丁抹皇帝陛下ノ
保証ヲ容納セリ況レヤ今英、仏、和蘭、普魯士(プロシヤー)四
大國ノ講解ニ因リ平和ノ議方ニ起ル我カ瑞
典皇帝豈ニ深ク其成効ヲ願ハサラレヤ且ツ貴
國幸ニ我カ皇帝陛下ノ前キニ魯軍ニ属スル

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

貴國兵ヲ擊破スルノ後ヲ以テ貴國皇帝陛下ヲ仇視スルノ所為ナリトナスコトナクンバ講和ノ議固ヨリ我カ冀フ所ナルヲ以テ英國公使ヨリ告諭シタル四大國講解ノ克ク妥定シテ兩國茲ニ好ヲ修スルハ実ニ我皇帝陛下ノ渇望スル所ナリ

千七百八十八年十月六日　瑞典國駐下抹全権公使

右千抹國皇帝陛下ノ外務卿ニ贈ル

（以上斐理謨氏公法書第三巻二百廿九丁ヨリ卅一丁ニ至ル）

又局外ノ國開戦前ヨリ成約ニ拘制セラレ戦者ノ一方ノ兵船敵國ノ船隻ヲ拿捕シテ其海口ニ進入スルヲ准ルシ而シテ其敵船其海口ニ進ムニ至テハ則之ヲ准サヽルモノアリ若シ或ハ之ヲ准スモ別ニ制限ヲ加フルモノアリ例ヘハ米仏二國ノ一千七百七十八年ニ於テ友好通商ノ條約ヲ立テヽ佛國之ニ依リ米國ノ海口ニ在テ格外ノ專権ニ款ヲ享受スルヲ得タルカ如シ格外ノ專権トハ（第一）仏國ノ（仏國ノ風義勇アイウエオ）兵船掳獲スル船隻ノ携ヘテ米國ノ海口ニ進入スルヲ准サヽルニシテ而シテ敵國此等ノ船隻ヲシテ則其海口ニ進入スルヲ准サヽ

前約ニ因テ此ヲ准シ彼ニ禁スル事アリ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

第二仏國ノ兵船急ニ遇ヘハ則チ米國ノ海口ニ進入シテ食糧ヲ購買シ船艦ヲ修理スルヿヲ其二款ニ於テハ米國未タ曾テ佛國ノ敵船其海口ニ進入スルヲ禁スヘキ約束ヲ為シタルニ非スト雖モ既ニ英國ハ当時仏國ト戦フモノナリト雖モ米國猶之ニ准スニ其海口ニ進入シテ以テ敵襲海患ヲ避クルヿヲ以テ既ニ英荷ノ二國猶未タ之ヲ以テ充分ト為ス米國ノ獨リ仏國ニ特許セタル第一款ノ権利即チ仏國ノ民有兵船（義勇）ヲ拿獲ノ船貨ヲ携ヘテ其海口ニ進入スルヿ准ス一事ハ実ニ均平公正ナラス頗ル偏倚ニ渉ルモノナルヿヲ以テ米國ヲ糾駁セリ仏國モ亦論シテ曰米國我敵國ノ兵船ヲシテ其海口ニ進入セシムルモノハ該款ノ意義ヲ誤解セルモノナリト英荷ノ論スル所ニ至テハ米國之ニ答ヘテ曰ク仏國ト約ヲ立ル已ニ長久ヲ歴メリ其民有兵船（義勇）ノ我港口ニ進入スルヲ准スルモノハ乃チ其猶恵ヲ償フモノニシテ預メ今日ノ事ヲ期シテ特ニ此ノ偏倚ノ約ヲ立ルモノニ非ルナリ此ノ一款ヲ除クノ外餘

其海口ニ進入スルヿ准スノ一事ハ実ニ均平公正ナラス頗ル偏倚ニ渉ルモノナルヿヲ以テ米國ヲ糾駁セリ仏國モ亦論シテ曰米國我敵國ノ兵船ヲシテ其海口ニ進入セシムルモノハ該款ノ意義ヲ誤解セルモノナリト英荷ノ論スル所ニ至テハ米國之ニ答ヘテ曰ク仏國ト約ヲ立ル已ニ長久ヲ歴メリ其民有（義勇）兵船ノ我港口ニ進入スルヲ准スルモノハ乃チ其猶恵ヲ償フモノニシテ預メ今日ノ事ヲ期シテ特ニ此ノ偏倚ノ約ヲ立ルモノニ非ルナリ此ノ一款ヲ除クノ外餘

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ハ皆ナ均平公正一律相視ルモノナリ何ソ口ヲ藉ッテ以テ相ト怨謗スルヲ得ンヤヤト

又佛國ノ全權公使ハ偏ニ前約ヲ特ニ其意米國ノ疆内ニ於テ弁丁ヲ徴募シ船艦ヲ裝備セン為ノ權ヲ主張セリ是ニ於テ米國政府公法ヲ査究シ諸邦ノ先例ヲ証徴シテ以テ事ヲ決セント欲スレハ則当時有名博識ノ公法家ノ衆説ヲ引テ曰ク戰時ニ当テハ局外ノ國必ス当ニ中ヲ守リ偏ナラサルヘシ此ノ國ニ利アリテ而メ害ヲ彼ノ國ニ致スモノハ是レ假面ノ局外者ノミ局外ノ國ハ当ニ此ノ如クニシテ以テ他國ノ欺騙スヘカラサルナリ苟モ旧約ニ覊束セラルルモノヲ除クノ外局外ノ地位ニ在ルモノハ彼此戰フ者ニ弁丁軍伕ハ勿論其他軍用ノ資ヲ供スル等ノ事一切之ヲ得且ツ弁丁ヲ招募スルノ事專ラ其國ノ主權ニ屬ス其國苟モ許サヽレハ則別國其疆内ニ於テ招募ノ事ヲ行フヲ得ス之ヲ要スルニ談一千七百七十八年米仏條約中仏國ノ敵國タルモノ米國ニ在テ弁備ヲ為スヲ得ストノ明文ハ米國ノ特ニ仏國ニ之ヲ准ルスカ為ノミ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

又鮮ヲ作スヿ能ハサルモノトス蓋シ該條約ハ其
事ヲ禁スルニ明文アリテ之ヲ准スルニ明文ナケ
レハナリ（以上惠頓氏公法書第七百十丁ヨリ十二丁ニ至ル）
斐理謨氏以上援拠スル所ノ惠頓氏ノ説ヲ評シ
テ曰ク惠頓氏此ノ如ク論述スト雖モ畢竟拿獲
ノ船貨ヲ携ヘテ局外國ノ港口ニ進入スルモノ
ト如キニ至テハ既ニ之ヲ一方ノ戦者ニ准ルヲ
後チ對方ノ戦者猶ホ同一ノ権ヲ要求スルニ於
テハ更ニ其請求ヲ杜絶スルヿ能ハサルヘシ而メ
彼此ノ間同ク之ヲ准ルスモ一ハ前約ニ因リテ
之ヲ准ルヿ一ハ其要求ヲ待ツテ之ヲ准ルヿタ
ルカ為ニ時ニ前後ノ別ヲ生スルモノト如キ
固リ公法ノ破格ヲ以テ論スヘカラサルナリ
（斐理謨氏公法書第三巻第二百廿九丁ヲ參観スヘシ）
其鄰邦數國若クハ諸國ニ對
ヲ守テレトヲ約スルモノアル
對シテ其中立ヲ擾テサラシムル
ナ中立ヲ守ルモノハ鄰邦其中立ノ権ヲ擾ルニ
非レハ之ト戰ヲ啓クヲ得サルニ因リ自ラ其主
権ヲ削殺スル所多シ（並ニ下ニアリ）

ベルマチント二ヨリ寫ス

永守ノ中立

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

河北撒歪(サヅサオ)諸邦ヲ包絡スル
ノ認約ヲ受ケタル白耳義國ノ如キ是ナリ瑞士
國ノ中立ハ千八百十五年三月二十日同盟諸大
國ノ布告ト瑞士聯邦ノ兼諾トニ成リ白耳義國
ノ中立ハ千八百三十年蘭蘭ト締盟ノ時五大國
ノ會盟ニ成ル蓋シ瑞士ノ地タル佛蘭西、以太利
両國ノ間ニ介マレ両國進兵ノ衝路ニ当リ又タ
白耳義ノ國タル仏蘭西日耳曼ノ間ニ居リ両國
ノ障塞トナルニ足ル故ニ瑞士、白耳義二國永ク
中立ヲ守ルノ約ヲ立ツルハ實ニ此数小邦タレ
ヲ永遠無殆ナラシメ且ツ欧洲ノ恭平ヲ保全ス
ル所以ナリ又タ波蘭(ポーランド)ノ旧境華喇(ハンガリー)高ノ城邑ノ如
キ一千八百四拾六年覆滅ノ前ニ当リ亦タ嘗テ
各國ノ保持ニ依テ局外中立ノ権ヲ享有セシト
アリ
千八百六拾七年日耳曼聯邦分裂後盧森(ルクセンブルヒ)堡公國
ノ國体ニ就テ一疑問ヲ生シタリ後チ別邦ヲ以テ
先キニ亦タ日耳曼聯邦ノ一タリ形勢極メテ雄壮金城
荷蘭國王ニ隷スル其都城ノ
湯池ノ勝アリ之ヲ仏蘭西ノ手ニ付シ若クハ普

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

魯士ヲシテ之ニ據ラシムルトキハ則均シク各
國ニ便ナラズトスル千八百六拾七年五月十一日
五大國及ヒ荷蘭盧森堡白耳義以太利ノ使臣龍
動ニ會盟シ盧森堡ヲ以テ
其保持ヲ墺地利大英國普魯士露西亞ノ四大國
ニ委ヌ以後盧森堡ノ城墨
堡公ヲシテ從來有ル所ノ城郭ヲ毀タシメ改メ
テ通都トナシ後タ城堡ヲ再築シ兵備ヲ設ケサ
ラントヲ約シ且ツ林堡ノ公國ヲ荷蘭王國ノ放
棄ニ屬スル諸小邦ノ
中立

兵防中立

間ニ存スル特殊ノ交際ヲ廢スヘキヲ定メリ」
局外中立ヲ守ルノ國ハ軍備ヲ設ケテ戰國ノ侵
擾ヲ防クノ權アリ又タ數國連合シテ之ヲ行フ
コヲ得之ヲ兵防中立ト云フ千七百八十年及ヒ
千八百年北海々濱諸國
連合シテ兵防ヲ
行フヲ見シ兵防中立ノ顯例
ナルトイヘトモ然レトモ此諸國獨
リ兵ヲ治メテ自テ防衛スルノ外猶妄リニ公法
ノ原則ヲ旁引シテ戰國ノ一方ニ抗對シ兵力ヲ
藉テ其願ヲ成サントスルカ如キニ至テハ中立
ナル文字ノ果シテ諸條約ニ適用スルヲ得

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

中立國義務

ベキヤ否ヤハ殊ニ世論ヲ免レサルモノタリ

第二節

凡ソ邦國戰爭ヲナスニ當テ之ニ與カラサル諸國其爭端ノ曲直ヲ論斷スルノ權ナシ又タ從來戰國ノ雙方ト交誼アルヲ以テ皆ナ自ラ局外中立ヲ格守スヘキノ義務アリ但タ其局外中立ニ關スル義務責任等ハ宜シク中立ノ國其位置ヲ固守セサル時ハ其交邦間ノ戰爭ノ爲メ危地ニ陷レラルヽノ虞アルヲ以テ預メ防範ヲ加フル所以ナリ實克（ビレクルスク）耳舍氏曰ク

我カ友邦ノ敵ハ友ヲ以テ之ヲ視ルモ可ナリ友邦ノ敵ヲ以テ之ヲ視ハ我彼ヲ援助シ彼レカ爲メニ謀ヲ盡スルノ權アリ應サニ軍兵ヲ發シ兵器軍需ヲ輸シテ之カ助ヲナスヘシ若シ友邦ノ敵ヲ以テ之ヲ視ルヤハ斷シテ此等ノ事ヲ爲スヘカラス是レ友好ハ須ラク公準ニ基テ偏重アルヘカラズ戰時ニ於テ獨リ一方ニ厚キハ友好ノ道ニ背ケハナリ故ニ戰時ニ於テ特ニ一方ニ偏祖シテ階ニ他ノ一方ノ友誼ヲ失フヨリ寧ロ戰國双方

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ト均シク友誼ヲ保守スル
ナリト賓克耳舎氏ノ論ス
シ然レドモ局外中立ノ法既
行ノ例又タ世ニ随テ変更
スル公法ヲ精細指定スル
ニ但シ今日ノ公法ハ勢ヒ漸
ク纂厳中立ニ帰ス
ルカ如シ

曾テ英國同盟各國ヲ糾合シテ以テ魯西亜ト戦
ヲ其始メニ当リ瑞典丁抹ノ両國局外中立ヲ守
ル者ヲ公告スト其文ニ局外ノ通義ヲ臚列セリ

今左ニ抜撮シテ以テ讀者ノ參觀ニ供ス（共詞ヲ）（卷二百三十一丁ヨリ三十三丁ニ至ル）

曼ニ我瑞典那威國皇帝陛下ハ專ラ誠実公平
ニ基キ各大邦ノ権利ヲ均シク敬重スル纂厳
局外中立法ヲ格守服膺セントト欲シ預メ條件
ヲ定メ我瑞典那威國皇帝陛下ノ政府ニ中立
ノ義務ヲ行ヒ並ニ其権利ヲ保スル左ノ如シ

第一條

交戦ノ間公然戦國ノ一方ヲ偏助シ若クハ暗
ニ声援資護ヲ加ヘ以テ他方ノ損傷ヲ致スト

（斐理讀氏公法書巻三）

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

勿ルベシ

第二條

戰國双方ノ軍船及ヒ商船ハ我瑞典那威ノ各港ニ出入スルヲ許ス但タ砲臺ノ設アル左ノ各港ニ軍艦ノ進入スルヲ禁スルノ權ヲ保有スヘシ

斯德和林港（ストックホルム）　華克和林（ワクスホルム）ノ砲台以内ヲ謂フ

基利斯的安港（クリスチアンスタット）　加和林（カルスクロナ）ノ砲台以内ヲ謂フ

哈丁内海（ハーテル）　那威國軍營ヲ劃ノ処ナリ

加尔斯丁（カルスタテル）港　其砲台以内ヲ謂フ

加尔斯格羅那（カルスクロナ）港　其砲台以内ヲ謂フ

廓特島（ゴツト）西列（スリツト）港　エンコルム砲台以内ヲ謂フ

既ニ施行シ及ヒ日後事ニ因テ施行スルヲ要スヘキ衛生警察ノ諸法規ハ須ラク履行遵守シテ稍ヤ稽慢アルベカラズ義勇船（プライゼキールヘン）ハ我瑞典那威ノ各港ニ入ルヲ許サズ又タ我瑞典那威國皇帝陛下ノ封境内ニ入ルヲ得ズ

第三條

瑞典那威ノ各港ニ於テハ戰時禁制（コントラバンド）ノ物品ヲ除クノ外戰國ノ軍艦ヲシテ需用ノ粮糧等實

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ノ購買スルノ便ヲ得セシムベシ

第四條

遭難傷損ノ證アルモノト外戰國鹵獲ノ船艦貨物ヲ携ヘテ瑞典那威ノ各港ニ入ルヲ許サスヌタ鹵獲ノ沒收賣買等ヲ禁スベシ

第五條

瑞典那威國戰國ト中間ニ存セル通商ノ交際ニ於テ瑞典那威國ノ船隻ハ其貨物ト共ニ一切ノ權利保護ヲ享有スベク港口封鎖ノ殊例ニ至テハ当サニ各國ノ普通認用セル例規ヲ遵守スベシ

以上定ムル所ハ今回欧洲兵戈ヲ動スノ時ニ当リ我瑞典那威皇帝ノ施用スル局外中立ノ要件ナリ而ノ天下ノ共ニ此ノ條件ヲ認メテ深ク公法ノ旨ニ称ヘリトナスベク且ツ之ヲ挙々遵守シテ失ハズンバ瑞典那威國皇帝ヲシテ能ク其友邦タル各國ト其國民ノ為メ永久保守セント欲スルノ好誼ヲ益ゝ敦クセシム

ルニ足ルヲハ実ニ我皇帝ノ自ラ信シテ望ヲ托スル所ナリ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

中立須ラク無偏ナルベシ

同時ニ抂國王ホメ此ニ類似セル告文ヲ以テ英國政府ニ贈ル

凡ソ自國ノ権利ヲ保護スル為メノ義ニ依テ戦ヲ企ツルハ其当局ノ國当サニ自ラ啓戦ノ正否利害ヲ考定スベシ而メ其戦ノ果メノ正義ナルト否トハ局外國ノ関知スヘキ所ニ非ルヿハ既ニ前ニ叙述セルヲルカ如シ蓋シ局外國ハ均シク友邦ヲ以テ戦國ノ雙方ヲ待タズンバアルヘカラス特ニ一方ニ對シテ毫末モ予奪スル所アルヲ得ズ故ニ若シ一方ニ對シ其兵船港ニ入テ軍需ノ資給ヲ取リ若クハ鹵獲ノ船及ヒ其船貨ノ港内ニ入ルヲ許スヤハホメ之ヲ他ノ一方ニ於テモ均ク之ヲ要請スルヿヲ得ヘシ若シ苟モ此ヲ偏助シテ好ヲ彼ニ失フハ之ヲ不義ト謂フヘシ此ノ如キハ則チ同盟ノ所為ニシテ局外ノ挙措ニ非ルナリ

無偏ノ中立ヲ尽クヲ要セズトナリ

第三節

無偏ノ中立ハ猶ホ未タ中立ノ公法ヲ完備スルニ足ラス中立國ノ便利ト戦事ニ関渉スルノ責任トニ就テ論スルヿナケレハ局外中立ノ法ヲ詳カニセントヲ欲セハ更ニ数言ヲ此ニ講セズンバアル

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ルベカラス戦國爭鬪ノ際ニ當リ一方ヲ偏助セサルモ我ヨリ双方ヲ援助トシテ之ヲシテ相ト殘ハレムルハ仁ニ非ラズ抑モ戦國双方ノ同仇ニシテ及覆而嗟ヲナス者ニ異ナラス豈ニ之ヲ称シテ戦國ノ無仇者トナスヲ得ンヤ況ヤ中立ノ國戦國ノ雙方ヲシテ其境内ニ入リ治軍ノ権利ヲ有セシムルヤ一方ニ利シテ他ノ一方ニ利ナラサルモノナキヲ保スヘカラサルニ於テヲヤ是レ特ニ外面ノミヨリシテ之ヲ望ムモ実ニ不公ナリトス譬ヘハ米國英露講和ノ時ニ於テ二國米國ノ境内ニ兵勇ヲ募集スルヲ許スカ如キ露國ニ於テ何ノ益カ之レ有ンヤ凡ソ局外中立ノ國ニ對シテ許容スル所アレハ勢ト必ス特ニ一方ニ便ニシテ到底彼此緩急ヲ同フセサルモノアリ而ヤナカラ損益ナキモノヲ擇テ之ヲ許シ戦國ノ一方其利便ニ害アリトテ称シテ抗論スヘキモノハ併セテ雙方ニ之ヲ許サヽルヲ最モ善トス然レトモ此法ハ屈弱ニ過キ及覆シ易ク実ニ行スヘカラス故ニ中立ノ良法ハ纔ニ守リ戦事ニ関シテ戦國ノ為メニ助クル所ナク又タ軍

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

事ノ為メ戰國ニ其境ヲ假サントルニ若クハナシ
前ニ記スル如ク開戰前既ニ戰國ノ一方ニ約ヲ
ルニ資助ヲ以テスルノ場合ニ於テハ其約スル
所ノ資助微少ニシテ中立國ヲ戰國ノ同盟國ト
見做スニ足ラサルモノヲ除クノ外凡ソ一方ニ
偏袒ヲナスモノハ之ヲ新
ベカラズ讀者此ノ二例ヲ
公法及ヒ慣例如何ヲ曉
局外中立ノ例仍ホ之ヲ詳論推究スルヲ要ス余

第四節

中立國須ラク戰國ニ對シテ仁義ヲ施スヘシ

ハ当サニ先ツ中立ヲ守ルニ因テ廢スヘカラサ
ル義務ヲ論シ次ニ中立國ノ当サニ為スヘキ事項ト
サル事項ト其戰國ニ對シテ許容スヘキ事項ト
ヲ論シ各條ノ下ニ就テ
シ

中立ノ國ハ須ラク戰國ニ對シテ仁義ノ道ヲ施
スヘシ蓋シ仁義ノ道ハ其仇敵若クハ蕃夷國ト
称スルニ足ラサル地方ノ民ニ對スト雖モ猶ホ
之ヲ廢スヘカラザルハ勿論ナリ是ヲ以テ戰國ノ兵
船険ニ遇テ中立國ノ港ニ来避スルモ苟モ特ニ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

之ヲ禁スルノ故アルニ非レハ之ヲ拒ムベカラズ戦國ノ敗卒逃兵逃テ中立國ノ境内若クハ河海ニ入ルヲ得ベク敵軍境ヲ越テ追撃スルヲ得ズ但ヲ敗兵逃卒ヲ待ツノ法尚ホ其定例ナレ陸兵境ヲ越ヘテ来投レ之ニ保護ヲ加フルヤハ之ヲ視テ帯甲ノ軍兵ヤナヤヲ直ケニ之ヲ友邦ノ臣民ト視做スヲ善シトスト雖ヘハ必ス先ツ其甲械ヲ収メテ而メ後チニ之ヲ保庇安撫ス其費用ハ則チ其本國ヨリ償ヲ拯ルヲ待テ中立國ヨリ出テ戦ル是レ友誼ヲ戦國ノ一方ニ失スルノミナラズ禍其國ニ及ヒ境ヲ肇テ戦國ノ闘場トナスニ至ルベシ但シ兵船敵ヲ避テ中立國ノ海界ニ入ルヤ之ヲ甲械ヲ納レシメ否ラサレハ則チ其ヲシテ外海ニ赴カシムルカ如キハ甚タ残忍無情ノ行為ニ似タリ各國ノ慣例亦多ク之ヲ用ヒス近時打抹スクレスルイダ勤斯威ト兵ヲ搆シ嘗テ此ニ類スルノ挙アリ千八百五拾年七月什勤斯威ノ小軍船一雙難ヲ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

避ケテ呂備ノ海界ニ入ル是ヨリ先キ呂備両戦
國ト好誼アルヲ以テ令ヲ発シテ曰ク凡ソ両戦
國ノ兵艦呂備國権ノ及ブ所ノ境内ニ入ルモノ
ハ先ツ其軍械ヲ納ムベシ否テサレハ則チ海中
砲丸ノ達スヘキ境界ノ外ニ去ルヘシト其小軍
艦ノ将官已ヲ得ス駛テ海面ニ出ツ此レ偏黨ナ
キノ行ナレ𪜈時ニ多ク呂備ノ非ヲ議スルモノ
アリ呂備乃チ自ラ辯シテ曰ク凡ソ中立ノ國逃
ケ来ル者ヲ撫護スルハ必ス先ツ自國ニ於テ利
害如何ヲ揣リ而ノ後チニ敢テ為スヘシ且ツ福小ノ國人其中

立ヲ擾ルコトナカラシコト欲セバ凡ソ戦事ニ関
スルモノニ於テハ必ス自ラ謹ミ極メテ纂叢ノ
中立ヲ守ラズンバアルヘカラス戦國ノ兵船ハ
其海洋ノ険難ニ遭フ𪜈ノ之ヲ去ラムベシト蓋シ中
立國陸兵ノ（軍械ヲ収ムルノ例ノ如キハ之ヲ海軍ノ業ニ適用
スヘカラス若シ我ニ来避セル兵船ヲ強テ直チ
ニ外海ニ赴カシムルハ敵ノ大軍之ヲ海中ニ要ス
ルコトアラシ是レ人ヲ険ニ陥ルモ𪜈リ若シ其軍械
ヲ收ムルハ費用太ダ鉅ク不便亦タ実ニ甚シ而ツ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ナカラ得テ行フヘカラサルニ似タリ

第五節

局外中立ノ國既ニ仁義ノ道ヲ施シ且ツ友邦ヲ敬重スルノ責アリ是ヲ以テ又タ戰國ノ兵船戰事ニ関ハラス平時常ニ有ルノ故ヲ以テ来ル者ハ其入港ヲ許スノ責アリ是ヲ以テ来テ為スヘキ事ハ戰國ノ巡警船亦タ港ニ来テ之ヲ為スヲ得ヘシ但タ商船ト雖モ軍実ヲ搭載スルモノハ兵船ト同シク其入港ヲ禁スヘシ

或ヒト問フ戰國ノ流船局外ノ海口ニ入リテ煤炭ヲ購買ス殫薬ト同ク禁シテ之ヲ拒ムヘキ欤抑モ又其必需ノ物タルヲ以テ之ヲ給與センカト曰ク英國一千八百六拾二年ノ法律ヲ以テ之ヲ論セハ則其本國最近ノ海口ニ駛帰スルカ為ニ需用スヘキ量ヲ度リ之ヲ給與スルヲ許ス其詳細ハ戰時禁制品ノ部ニ就テ見ルヘシ

従来各國普通ノ例巡警船具鹵獲ヲ携帯シテ中立國ノ港ニ入ルヲ許ス是ヲ為スヘキ義務ニ属セサルヲ以テ苟モ公明正大ノ改畧ヲ施サレト欲

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

寧口

セハ之ヲ禁スルノ穏当ナルニ若クハナシ

第六節

米國南北分爭ノ亂ニ當リ英國政府ハ千八百六十一年六月一日ヲ以テ南北雙方ノ兵船及ヒ義勇船其敵船ヲ拏獲シ之ヲ携帯シテ英國及ヒ其藩屬殖民地ノ各海界ニ入ルヲ禁スルノ告示ヲ發シ佛國モ亦タ同年六月十日ヲ以テ同一ノ禁令ヲ發セリ但タ其英國ト異ナル所ハ鹵獲ヲ携テ入港スルモノ二十四時間ノ滯泊ヲ許シ巡警船之ヲ抑留スルヤ否ハ事ノ軍ニ關スル迫滯泊セシムル是ナリ此ノ禁各國ノ條約ヲ亦タ之ヲ定ムルモノアリ

佛人郝德斐（オトフュイエ）氏ノ萬國海律質疑ニ英仏二國ノ禁令其前ニ締結セル米國トノ條約ニ照シテ矛盾スル所ナキヤ否ヤヲ論セリ按スルニ千七百九十四年米國ト大英國トノ條約第二十五條ニ曰ク兩國所屬ノ兵船及ヒ義勇船ハ其敵國ヨリ奪フ所ノ船隻貨物ヲ携テ何ノ處ノ兩國ノ各港ヲ云フニ赴クモ都テ其意ニ任スベシト又タ曰ク兩國ノ臣民ニ對シテ拏獲ヲナスヲ保庇スベカラ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

スト却徳斐(ホートヨイ)氏曰ク第二十八條ニ此条約中初十条ハ之ヲ永遠ニ存シ其餘ノ諸條ハ十二年内ニ之ヲ更訂スヘキヲ明言セリ而ノ終ニ之ヲ更訂セサルヲ以テ十條以下ノ諸條ハ自ラ廃棄ニ帰シタリ但シ廃棄ニ帰シタルモ更ニ他ノ約ヲ立テ之ニ代フルトキニ因リ其旧約ヲ拠シテ両國ノ交際ヲ規定スルハ余カ禁制品ノ条ニ於テ之ヲ証スル如ク各國並ニ英國政府カ全ク成例(キル)公法ノ正例トシテ因テ英國ヲ破毀シ旧約ヲ以テ無効ノモノトナスニ非レハ米國船隻鹵獲ヲ携テ巻港スルヲ許シ我カ商船ヲ撃獲シタルモノヽ入港ヲ拒ムノ約ト六月十日ノ布告ト相ト協ハサルニ至テ退テ條約ノ原文ヲ考フルニ第十條以下ノ改正スヘキノ語アルヲ見ス但タ第十二條ハ英國ト其敵國トノ戦争結了ノ後二年ニシテ直チニ罷ムヘキヲ明載スルヲ以テ独リ此ノ条ヲ除キ餘ハ皆ナ実行十二年ヲ期限トシ之ヲ改ムヘクンハ之ヲ改定シ否ラサレハ期満チテ止ムヘキヲ言ヘリ則チ六月十日ノ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

布告ハ此條約ニ對シ正當完備ナルモノニシテ
毫モ理義ニ於テ相悖ハサル所ナシ郝氏何ニ拠
テカ之ヲ非ナリトスル想フニ此ノ條約ヲ誤讀
シテ其意義ヲ失セルヨリ遂ニ此ニ至リシナリ」
郝德斐氏又タ曰ク英仏ノ外若シ他國中千八百
六十一年合衆國ニ許スニ此權ヲ以テスルノ約
ヲ立ツルモノアラハ合衆國及ヒ南部聯邦ノ船
隻ヲ待ツ最モ公平均一ナラズシバアルヘカラ
ズ且シ合衆國及ヒ南部聯邦皆ナ條約ニ関列ス
ル者ナレハナリト余謂ヘラク公法ニ於テ凡ソ背

叛ノ民ハ未タ與國ト兼認ヲ得テ邦國ノ間ニ列セ
サレハ人ノ恵待ヲ仰クニ止マリ決シテ所謂エ
ル権利ナルモノヲ有スヘカラズ南部聯邦ハ自
ラ合衆國ノ聯合ヲ脱離シ其義務ヲ抛棄セルヲ
以テホタ自ラ其権利ヲ暴殄セルモノナリ豈ニ
復タ旧約ヲ拠シテ之ヲ待ツヘケンヤ果シテ郝
德斐氏ノ言ノ如クナラハ却テ南部ノ諸州将サニ一
切ノ條約ニ於ケル権利ヲ享有スルヲ得ン復タ
豈ニ其別ニ一國タルノ公認ヲ求ムルヲ要セン
ヤ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

中立国ノ当サニ為スベカラザルモノ如何

第七節

更ニ一方ニ就テ之ヲ論スルニ凡ソ中立ノ國戰國ニ銀ヲ貸シ之ヲ助クルカ如キ類ノ立約アルモ之ヲ除クノ外（前ニ論スル如ク類ノ立約アルモ）戰爭ノ為メ港口ヲ開テ戰國ニ假シ又ハ其戰意アルヲ知テ戰國ノ人民及ヒ兵船ヲ境内ニ納レ或ハ自國臣民カ戰國ノ一方ヲ助ケンカ為メ兵船ヲ製造裝備シ又ハ大海若クハ中立國ノ港中ニ於テ戰國ノ一方ヲ助クルノ用ニ充シント欲シ水軍ヲ制スル為メ戰艦ヲ製作スルヲ容ス者皆ナ局外中立ノ法ニ背違セルモノナリ又タ中立國ハ船ノ其官衙ヲ戒メ戰國兵船ノ拿取セル鹵獲ノ正否ヲ判定スルノ所タラシメサルヘカラス

是ヲ以テ中立國ニ在テ船隻ヲ貿易品トシテ一方ノ戰者ニ賣渡スヿヲ得ヘシト雖モ之ヲ購賣シテ其巡洋船ヲ增設シ以テ敵國ノ船貨ヲ拿獲シテ而メ之ヲ局外國ノ海口ニ携来スルニ於テハ素リ当否ノ問難ヲ免レサルモノトス又タ戰時ニ於テハ中立國未タ其至準サルニ先ツテ戰國ノ奪取セル土地貨物ヲ買収

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

レテ已レノ有トナスベカラズ

中立ノ國此等ノ例ニ背キ又ハ少シク仇敵ノ行為ト認ムヘキモノアルトキハ則チ皆ナ其損害ノ責ニ任スベク或ハ兵禍ヲ結ブ(之カ為ニ)アリ若シ政府視察ノ忌テサルヨリシテ其民間ノ所為交邦ニ傷害ヲ加フルヲ致ストキハ國家亦タ之ヨリ起ル傷損ヲ負擔スベシ各國皆ナ各其國境内ニ於テ公法ヲ遵行スベキノ責アルニ因リ独リ本國ノ法律ニ明条ナク若クハ適応ノ法例ナキヲ以テ之ヲ辞スルヲ得ス但タ奸商及ヒ船工隠匿百出往々政府(ノ)ニシテ此等ノ犯則アルヲ覚ラサラシム且ツ兵船ヲ戰國ニ賣ルカ如ク止タ戰時禁制ノ貿易ヲナスト故テニ戰國ニ對シテ仇敵ノ行ヲナスモノトハ其分限時ニ顯然タルモノアレトモ甚タ辨シ難キモノ多シ故ニ奸民細人不正ノ所為モ亦タ今時ノ公法及ヒ之ヲ遵行スル各國ノ法網ヲ免脱スルモノアリ若シ中立國其交邦相ト戰フノ時ニ当リ其國中船隻ヲ製造シ兵船ヲ裝備スル者ヲ黙スルニ擔保(セキヨリテ)ノ法ヲ以テシ例ヘハ船一隻ノ代價ニ二倍セル金額ヲ備ヘシム

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

阿拉巴麻ノ事

ル等ノ如シ其友邦ニ抗敵スル用ニ充ツル為メ製造装備スルモノニ非ルヲ保証セシメ亦メ庶幾ノハ稗益スル所アラシレ

第八節

軍艦阿拉巴麻号ノ事件ハ公法上ノ名案ナリ茲ニ其顛末ノ概略要領ヲ掲クル左ノ如シ

第一　此船初メ名ナシ祇タ第二百九十号艦ト称スル後チ阿拉巴麻ト改ム其製軍艦タル顕然タリ而メ製造者又タ自ラ称スル外國政府ノ需ニ応シテ製造スル所ナリト

第二　本艦ノ監造ヲ負擔セル人ハ近ロ巴利摩ノ需ニ応シテ製造シタル軍艦オレート号ヲ送テ西印度海ニ赴メ者ニシテ其後南部聯邦ヨリ一汽船ニ乗シ南部叛州ノ偽旗ヲ張テメルシー海口ニ着セリト云フ

第三　一人法廷ニ於テ供出シテ曰ク本艦ハ戦ヲ助ケシカ為メ将サ人嘗テ語テ曰ク本艦ハ戦ヲ助ケシカ為メ将サニ米國南部聯邦ニ赴カシレトスト

第四　本艦製造ノ縁故犯情甚タ著ハニシテ掩フベカラス米國公使ノ代言師書ヲ以テ之ヲ論

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

レテ曰ク外國ノ招募（エンリストメント）ニ応（エクト）スルヲ禁スルノ法律ニ違犯セル此ヨリ甚タシキハナシ此ノ艦ニシテ其罪ヲ免カルヽヲ得バ法律ハ殆ント廃紙ニ等シト又タ曰ク合衆國ハ此件ニ於テ厳ニ爭論スヘキノ理アリ断シテ之ヲ措クヿ能ハスト然ノ英國政府ノ延引セル著名ノ代言師ハ則チ言ノ戦用ノ為メ船隻ヲ製造シ英國ノ港口ニ於テ之ヲ戦國ノ代辨者ニ賣渡スモ製造人自ラ軍用船ノ装備ニ関与スルニ非レハ外國ノ招募ニ応スル禁スル法律ニ違犯セリト謂フヘカラス蓋シ阿（アル）索（ソ）海ニ於テ之ヲ装備セルニ非ルナリト

第五　七月廿三日ニ至リ英國政府始メテ確証ヲ得是レ著名ナル英國学士（ベルナルド）氏英國中立論ノ言ノ如ク陪審ヲシテ本艦ノ実ニ南部叛州ノ用ニ供スルモノタルヲ信認セシムルニ足ルモノナリ二十八日合衆國ノ代言師本艦明日ヲ以テ出港セレトスルヲ知リ之ヲ龍動関税局総司ニ告ク三十一日ニ至リ関税局始メテ令ヲ発

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ヒテ之ヲ抑留セシム然レ𪜈事已ニ晩ク本艦是
ノ日ヲ以テ颺然港ヲ出テ逸シ去ル

第六　本艦（テルセイラ）ニ抵ル北ト帆船一隻本艦応
用ノ砲彈火薬器械ヲ載セテ英國違来斯河（テームス）ヨリ
来リ又タ一隻甲械水手及ヒ其後本船ノ主将ト
ナル人ヲ載セテ（キ）メルレー海口ヨリ同ク来リ会
ス乃チ海濱涼僻ノ地ニ於テ戰艦ノ裝ヲナシ裝
備既ニ畢リ遂ニ南部叛州ノ旗章ヲ掲ケテ出テ
去ル

第七　犯情此ノ如シト雖𪜈英國ハ其英國ノ法
律ニ背キ惡クハ公法ノ明条又ハ其精神ニ違戻
スルノ罪ヲ挽シテ之ヲ追拿セズ尋常戰國ノ需
ニ応シテ製造シタル船隻ト一様ノ看ヲナシタ
リ

此挽件ハ独リ英國ノ法律ニ就テ世議ヲ生スル
ノミナラス公法ニ於テ中立國ハ其臣民ヲ戒メ
仇敵ノ計ヲシテ其境内ヨリ発セサラシムルノ
責アルヤ否又タ國ニ完備ノ法制ナキヲ以テ其
責ヲ辞スベキヤ否ノ理義ニ関スルヲ以テ事体甚
タ重シトス外國ノ海面ニ於テ此ノ如キ仇行ヲ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ナスハ本ト詐冒奸謀ニ出ツルモノニシテ世間
常ニ有ルベキノ事タリ然レドモ尚ホ英國諸法家
狀師ノ主張スル如ク其損害ヲ補償スルノ請ヲ
拒ムノ辞アリヤ或ハ否ラスシテ犯計（リバープール）
ニ発意シ其証憑明確ナルヤ米國ハ（アメリカ）氏ノ
言ノ如ク英國政府ニ向テ其被ムル所ノ損害ヲ
怨訴スルノ権アリヤ知ラズ何レノ法ヲ以テ此
ノ大疑ヲ決セン國法ヲ按ニテ之ヲ質サント乎抑
モ邦國相互ノ公義ニ拠テ之ヲ断セン乎余ハ未
タ其就ク（ニ非ルカ）ベキ所ヲ知ラサルナリ

道ヲ假テ兵ヲ進ムルヲ許スハ公法難ノ一ナリ

第九節

昔時中立ノ國ハ戰國道ヲ假テ兵ヲ進メ又ハ其
國境ノ水路ヨリ兵船ヲ進ムルヲ許シ及ヒ其港
口ヲ假テ戰備ヲナサシムル等苟モ戰國ノ双
方ニ對シテ偏厚ナケレハ別ニ咎ナシトス
今ハ則チ人皆ナ謂ラク中立ノ國ハ両ナカラ之
ヲ拒テ許サヽルヲ可トス惟タ須ラク自ラ其利
害ヲ揣テ決断ヲ行フベシト（華陶尔（ワトル）氏独リ謂フ
巳ムヲ得サルノ場合ニ於テ道ヲ假ルモ其國ニ
害ナキ時ハ戰國ヨリ強テ之ヲ求ムルヲ得ベシ

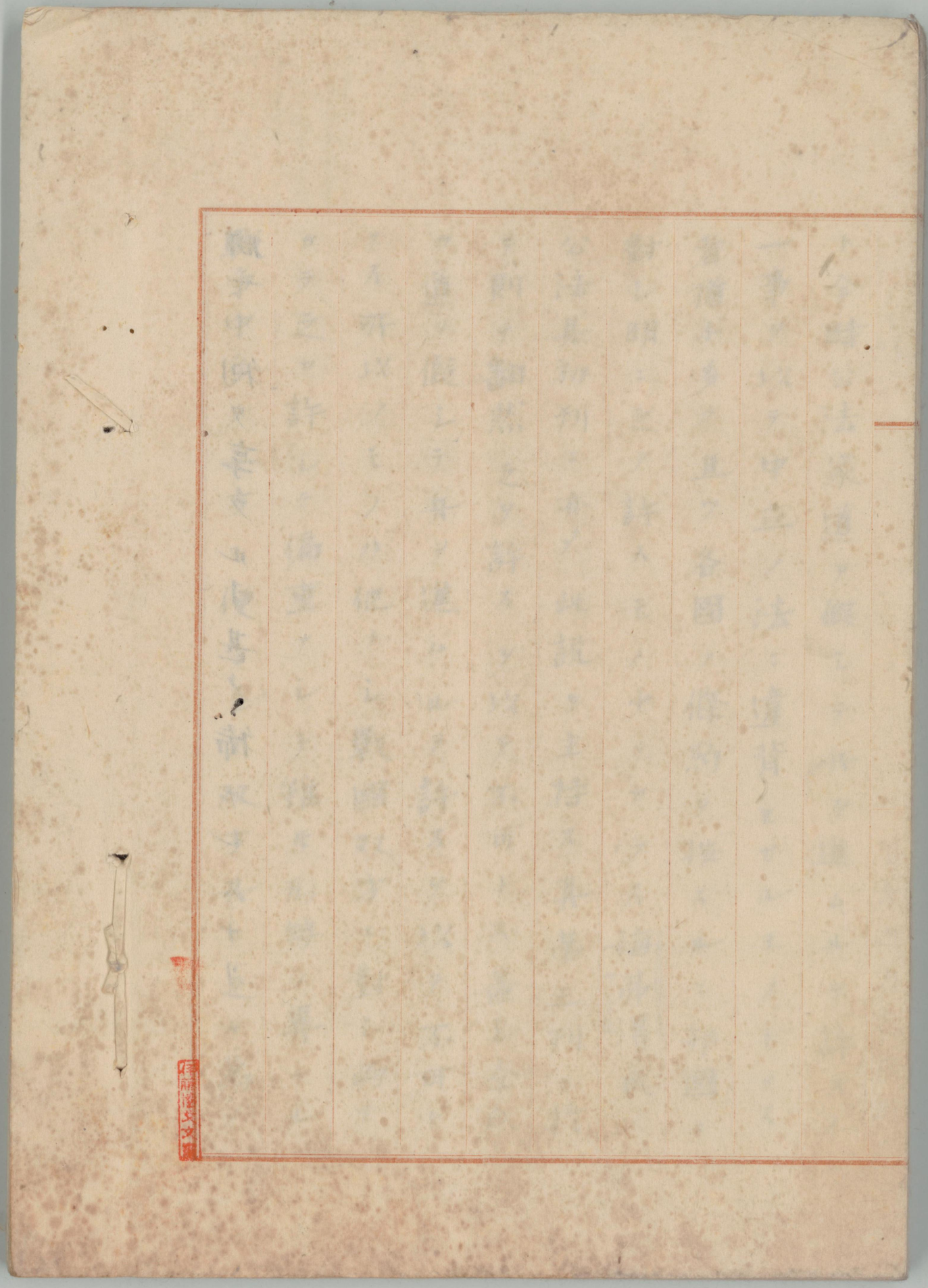
伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1

ト今時公法家道ヲ假ニテ兵ヲ進ムルヲ許スノ一事ヲ以テ中立ノ法ニ違背セサルモノトナス者備ホ多ク且ツ各國ノ條約ヲ挽スルニ邦國ニ對シ明ニ之ヲ許スモノ少ナカラス海陸得氏ノフテリ公法甚初刊ニホ多ク此説ヲ主持ス其第三刊ニ於テハ則チ翻然之ヲ許スヲ以テ不可トス蓋シ全氏カ道ヲ假ニテ兵ヲ進ムルヲ許スヲ以テ不可トナス所以ノモノハ他ナシ戰國双方ニ對シ両ナカラ之ヲ許シテ偏重ナシトセハ雖モ形勢ノ異ナル戰争中多ク一方ニ便ニシテ双方共ニ之ヲ為メ同一ノ利ヲ享クルヿ甚タ鮮ナシトハナリ

伊東巳代治用紙

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1



国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 310-1